

## 2013 年度デジタルプラクティスアワード報告

デジタルプラクティス (DP) の目的は、ICT 実務の現場での実践やそこから生み出される知見を広く社会全体で公開共有し再利用することです。この目的に最もかなう論文を1年に1編選び表彰しています。2013年度デジタルプラクティスアワードは以下のように決まりましたので報告します。

### 記

**受賞者**：石黒満久 ((株) NTT データ)

**受賞論文**：地域医療連携ネットワークの構築と運用継続性の追求—長崎：あじさいネットを事例とした社会基盤サービスの構築— (Vol.4 No.3 (通巻第15号), pp.236-243)

**論文概要** (Web ページ [http://www.ipsj.or.jp/award/dp\\_award.html](http://www.ipsj.or.jp/award/dp_award.html) から転載)：「病院完結型から地域完結型の医療へ」の政策の下、地域医療連携ネットワーク構築などの取組が広がっている。地域医師会などの協力のもとに基幹的な病院の多くは、電子カルテなどの ICT 化を積極的に進め、急性期の患者を回復期病院や開業医へ紹介することで、地域の中で完結する医療体制を確立させようとしている。しかし、これまでの ICT を活用した医療連携ネットワークでは、構築や運用における課題が多く、運用の継続が困難になる事例が多く見られた。本稿では、長崎あじさいネットの実践経験をもとに、社会基盤システムの観点から運用継続性を追求するプラクティスを紹介する。

**表彰式**：ソフトウェアジャパン2014懇親会(タワーホール船堀, 2014年2月4日)にて賞状および記念品を贈呈した(写真)。



左：石黒満久氏, 右：平田委員長

**選考方法**：選考委員会であるデジタルプラクティス編集委員会委員は2013年1月～12月に発行されたDPに掲載された全論文(招待論文, 投稿論文含めて全39編)の中からベストプラクティスが十分に記述されていること, 論文として内容・構成が優れていることという観点から, 特に優秀と認められる論文を選定した(デジタルプラクティスアワードに関する Web ページ [http://www.ipsj.or.jp/award/dp\\_award.html](http://www.ipsj.or.jp/award/dp_award.html) をご覧ください)。

以上